

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

製品名：炭酸銅(Ⅱ)(塩基性)

## 会社情報

会社名：関東化学株式会社  
住 所：〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1  
担当部門：試薬事業本部 企画管理部 資料課  
電話番号：(0120)260-489  
FAX番号：(03)3241-1047  
メールアドレス：BC32@kanto.co.jp

整理番号：07487  
推奨用途：試験研究用  
使用上の制限：推奨用途以外で使用する場合は専門家の判断を仰ぐこと。

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類

健康有害性 急性毒性（経口） 区分 4

## 絵表示



注意喚起語：警告

危険有害性情報：飲み込むと有害

## 注意書き

安全対策：取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置：飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。  
口をすすぐこと。

廃棄：内容物／容器を国際、国、都道府県又は市町村の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：物質

化学名	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS RN
			化審法番号	安衛法番号	
炭酸銅(Ⅱ)(塩基性)	54 - 58	approx. CH <sub>2</sub> Cu <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	1-130	既存化学物質	12069-69-1

\*濃度：銅として。

## 4. 応急措置

### 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気の場所に移し、鼻をかませ、うがいをさせる。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに付着部を多量の水で十分に洗い流す。
- 眼に入った場合 : 直ちに流水で十分に洗い流す。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに水または食塩水を飲ませて吐かせ、医師の処置を受ける。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグルなどの保護具を着用する。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : この製品自体は、燃焼しない。
- 使ってはならない消火剤 : 特になし
- 火災危険性 : 強熱されて分解すると、有害性のある酸化銅(Ⅱ)の煙霧およびガスを発生する。
- 消火方法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器および周囲に散水して冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 呼吸保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

- 一般的措置 : 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものなどが皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。

### 環境に対する注意事項

- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 封じ込め方法 : 飛散したものは掃き集めて空容器に回収する。飛散した場所は水で十分に洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 皮膚に付けたり、粉塵を吸入しないように適切な保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項 : みだりにエアロゾル、粉塵が発生しないように取扱う。

### 保管

- 安全な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。
- 安全な容器包装材料 : ガラス、ポリエチレン、ポリプロピレンなど。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない
産衛学会 許容濃度	設定されていない
ACGIH TWA	設定されていない

- 設備対策 : 粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。

### 保護具

- 呼吸用保護具 : 必要に応じて防じんマスクを着用する

手の保護具	: 不浸透性保護手袋
眼の保護具	: ゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	: 保護衣（長袖作業衣）、保護長靴、保護服等

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体
色	: 淡青緑色
臭い	: 無臭
pH	: データなし
融点	: データなし
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: 220 °C
可燃性	: 不燃性
蒸気圧	: データなし
相対密度	: 3.85 (25/4°C)
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 水: 不溶。有機溶媒: エタノールに不溶。
n-オクタノール/水分配係数 (log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: 炭酸アルカリを含む溶液と煮沸すると褐色の酸化物となる。
化学的安定性	: 通常条件下で安定である。
危険有害反応可能性	: 酸化剤と接触すると激しく反応することがある。
避けるべき条件	: 日光、熱。
混触危険物質	: 酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、酸化銅。

## 11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 飲み込むと有害 ラット LD50=1350mg/kg
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない (気体) 分類できない (蒸気) 分類できない (粉じん、ミスト)
皮膚腐食性/刺激性	: 分類できない 皮膚を刺激する可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 分類できない 眼を刺激する可能性がある。
呼吸器感作性	: 分類できない

皮膚感受性	: 分類できない なお、銅ないしその化合物として、日本産業衛生学会では皮膚感受性第2群としているが、すべての物質が同定されるわけではないとの記載がある。
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 分類できない なお、ヒトの銅粉塵、ミストの吸入ばく露では、気道刺激性、咳、悪心、頭痛、胃腸痛、嘔吐、出血性胃炎、下痢、金属フェーム熱に類似した症状が報告されている。また、銅金属のヒトの経口摂取では胃腸管の刺激、悪心、嘔吐、下痢の記載がある。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 分類できない
誤えん有害性	: 分類できない

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	: 分類できない
水生環境有害性 長期(慢性)	: 分類できない

### 残留性・分解性

追加情報なし

### 生体蓄積性

追加情報なし

### 土壌中の移動性

追加情報なし

### オゾン層への有害性

オゾン層への有害性	: 分類できない
-----------	----------

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 廃棄は次のいずれかによる。または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。
-------	---

固化隔離法 :  
セメントを用いて固化し、埋立処分する。

焙焼法 :  
多量の場合には還元焙焼法により金属銅として回収する。

<備考>  
\*焙焼法による場合には専門業者に処理を委託することが望ましい。

汚染容器及び包装	: 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。
----------	----------------------------------

## 14. 輸送上の注意

### 国際規制

#### 海上輸送(IMDG)

国連番号(IMDG)	: 非該当
正式品名(IMDG)	: 非該当
容器等級(IMDG)	: 非該当
輸送危険物分類(IMDG)	: 非該当

#### 航空輸送(IATA)

国連番号 (IATA) : 非該当  
正式品名 (IATA) : 非該当  
容器等級 (IATA) : 非該当  
輸送危険物分類 (IATA) : 非該当

海洋汚染物質 : 非該当

#### 国内規制

陸上規制 : 消防法、毒物及び劇物取締法、道路法の規定に従う。  
その他の情報 : 補足情報なし

## 15. 適用法令

#### 国内法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条第 1 項、施行令第 1 8 条第 1 号～第 2 号別表第 9)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第 5 7 条の 2 第 1 項、施行令第 1 8 条の 2 第 1 号～第 2 号別表第 9)  
銅及びその化合物 (政令番号 : 379)

毒物及び劇物取締法 : 劇物 (指定令第 2 条)  
無機銅塩類

道路法 : 車両の通行の制限 (施行令第 1 9 条の 1 3、(独) 日本高速道路保有・債務返済機構公示第 1 2 号・別表第 2)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法) : 非該当

## 16. その他の情報

参考文献 : 化学大辞典 共立出版社 (1963)。  
毒劇物基準関係通知集改訂増補版 毒物劇物関係法令研究会監修 薬務公報社 (2000)。  
NITE 化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)、独立行政法人製品評価技術基盤機構。

\*この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取り扱いには充分注意して下さい。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取り扱いをする場合には、その用途・用法に適した安全対策を実施して下さい。また、含有量、物理/化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。この安全データシート(SDS)は、JIS Z7253 に基づいて作成しております。